

令和 4(2022)年 2 月 1 日  
株式会社フォーバル  
海外ディビジョン

ベトナムホーチミン・マレーシア  
状況レポート(1 月)

企業経営を支援する次世代経営コンサルタント集団で、中小企業の DX アドバイザーのリーディング・プレーヤーである株式会社フォーバル(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中島 将典、資本金:41 億 50 百万円、東証一部上場【証券コード:8275】)では、宮城県内企業・団体等の皆様にお役立ていただくため、弊社海外拠点があるベトナム・インドネシア・カンボジア・ミャンマーを中心に東南アジア圏それぞれの地域における、現地情報をご紹介します。今回はベトナムホーチミンとマレーシアを中心にご紹介します。

・東南アジア各国の新型コロナウイルス感染・状況

国	感染者数/1 日※	状況
ベトナム	17,376 人 増加傾向 (1 月 25 日～1 月 31 日の平均) 先月同時期対比+1,466 人	5P にて詳細記載
インドネシア	4,146 人 増加傾向 (1 月 22 日～1 月 28 日の平均) 先月同時期対比+3,924 人	年明け以降、週を追うごとに感染状況が悪化している。政府は急激な感染状況悪化に備える形で、2 週間ごとに更新していた行動制限を 1 週間ごとに更新するように変更している。
マレーシア	3,144 人 減少傾向 (1 月 15 日～1 月 21 日の平均) 先月同時期対比-50,020 人	2P にて詳細記載
カンボジア	39 人 増加傾向 (1 月 24 日～1 月 30 日の平均) 先月同時期対比+38 人	ワクチン接種完了者の渡航に隔離を撤廃し、ビジネスや観光の呼び込みに向けて動き出している。政府関係者、前線の医療従事者などから、第 4 回目のワクチン接種が開始されている。
ミャンマー	169 人 減少傾向 (1 月 24 日～1 月 30 日の平均) 先月同時期対比-23 人	感染が落ち着き、陽性率は 1 割以下の日が継続。最大都市ヤンゴンでは、交通量も増加し、街中・ショッピングモールなどにおける賑わいも戻っている。オミクロン株の感染も増えているが、まだ市中感染には至っていない。

※出所:WHO、カンボジア保健省の情報を元に弊社作成

## ・マレーシア

### 規制とルール

コロナのブースター接種(3回目ワクチン接種)は、すでに成人の70%強が済んでおり、1月からは、5-11歳の初回接種がファイザー限定で開始されています。WHOは承認しているものの、日本では承認されていない中国製ワクチンのシノバックですが、副作用がマイルドということでマレーシア国内では接種希望者は多く、児童用にシノバックを希望する親が多くなっています。コロナプリでのQRコードでのチェックイン&チェックアウトと共に義務付けられていた店頭での検温は、2月より不要となります。2019年コロナ感染が始まって以来、帰省移動、国内旅行、集会への規制のない旧正月は2年ぶりとなる為、国民は盛り上がりを見せています。また、海外からの帰国者のマレーシア人に関しては同時にブースター接種まで完了している者に関しては、自宅での隔離待機期間が、7日間から5日間へ短縮されます。しかしながら、依然、長期滞在ビザを持たない外国人の入国は、厳しく制限されており、商用での入国も、事前の許可証を得るのは容易ではなく、マレーシア投資開発庁(MIDA)、国際貿易産業相(MITI)など関係省庁からの正式書面が入国の際に求められるため、国際的なイベント等の開催は、まだ遠いといったところです。

### 街中の状況

オミクロン株感染者増(日々3,000~4,000人)によって、シンガポールとの国境を再び閉ざす(発券を一時的に中止)こと、イスラム教徒のメッカ巡礼の一時停止を発表したものの、政府は前年は禁止とされていた旧正月を祝うための家族間でのレストランでの食事、各家庭においての宗教的な集まりは許容するという正式な発表を1月19日に行いました。旧正月が近づくと、ショッピングモールの装飾を含め、街中が華人にとって縁起の良いとされる赤一色になり、新年を迎えるために赤い色をまったり、お金を象徴しているとされる蜜柑(マンダリンオレンジ)が各地で出回るなどの風物詩や慣習がありますが、不安定な日々の収束を願ってか、例年以上に赤色の目立つ年末(1月)となっています。また、今月から公立学校の通学が再開されたこともあり、交通量は激しくなっており、これにモンスーンの影響で雨が降った時は大渋滞が起きています

## 飲食店の状況

中華系レストランは、旧正月の影響で職場仲間、友人、家族など団体での会食が集中しており、どこも趣向を凝らしたメニューをSNSを駆使し訴求しており、ロックダウンで受けた損益を取り戻そうと激しい商戦が繰り広げられています。約2年規制されていた婚礼の会食も再開されて、週末は婚礼用に装飾された高級車が街を走り回り、各大型中華レストランに横付けされています。旧正月を祝うお料理の一つとして生魚(ロウサン/ユースン/イーサン)がありますが、刺身を使っているということもあり、日本料理のレストランでも、この時期は鯛・スズキ・ホタテなどを用いてホームパーティーや華人レストランへの持ち込みといった需要に対応しています。



・日本料理レストランで販売される旧正月向け料理

## 小売店の状況

旧正月を控えウインドウショッピングは、コロナ禍で敬遠していた中高年の消費者が、お正月の支度へ街に戻ってきています。華人には、かつての日本のお正月のような習慣が強く残っており、お正月には下着も含め新しい服や靴を身に着ける人が多く、下着まで含め赤を着る方々も多いのでやはりオンラインでなく実物を見て買いたいということになるようです。向こう1年分の用品は、旧正月に新調、翌年の旧正月まで買わない人も多く、店側も一年で一番の稼ぎ時となっています。しかし、商品にあまり真新しい感じがなく、ここ2年弱のロックダウンでダブついている在庫の量を想像してしまうような店舗も多いです。先月20日にオープンを発表していた三井不動産のKLららぼーとは、大洪水の影響で正式なオープンを今年(1月)の20日と訂正しています。マレーシア初上陸の、ニトリ・ノジマを始め、ドンドンドンキ3号店も入り、他のショッピングセンターにはないららぼーと店舗も多く話題性はありますが、購買力のある年齢層を取り込むには、少々厳しい立地条件となっています。オープン後初の週末に足を運んだ限りでは、買い物客は大変まばらなうえに、開店していないテナントも目立ち、また他のショッピングセンターに比べると駐車場料金が低いのもネックになっています。食品においては、先述したお金を象徴する蜜柑(中国産)について、コロナ禍の

輸送コストの高騰もあり、50%高となっており、日本からの輸入蜜柑との価格差が若干縮んだ状況と言えます。2015年あたりから愛媛や和歌山の蜜柑が旧正月用に日本から輸入されるようになり、愛媛県知事が伊勢丹のデパ地下でマハティール元首相も招いての即売会などが盛んに行われていましたが、当時と比較して日本産の価格は下がり、今年は中国産蜜柑と一緒に並べられて平場の店頭で販売されております。日本産蜜柑が、飛ぶように売れているとも言えませんが、少量で販売する工夫などが功を奏して、試した後に箱で購入している買い物客も多く見られました。



・1月20日にオープンしたKLららぽーと



・中国産蜜柑(左)日本産の蜜柑(中央、右)

・ベトナム ホーチミン

規制とルール

ベトナム全国では、政府がコロナの感染者率・ワクチン接種率などに基づいて、それぞれの地域を4つのレベルで評価しています。レベルに応じた規制があり、ホーチミン市の多くはレベル 1 (Green zone)となっていますが、一部ホーチミン市の省轄市である THU DUC 市・BINH THANH 区は、レベル 2(Yellow zone)となっており、規制が行われています。規制ルールは以下の通りです。

項目	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
<b>屋内と屋外の活動を制限</b> 地域のレベル状況により、人数規制を出す。	人数無制限	制限・条件あり	禁止若しくは制限・条件あり	禁止若しくは制限・条件あり
<b>生産、工事・建設</b> *COVID-19の予防と管理を徹底し、それに応じた対策を実施する責任があります	活動*	活動*	活動*	活動*
<b>サービス経營業種 SHOPPING CENTER・スーパー・コンビニ・卸売市場・小売店</b> *1 COVID-19 の予防と管理を徹底し、それに応じた対策を実施する責任があります。 *2 店内人数(売主・買主)を制限します。	活動*1	活動*1	活動*1	活動*1/活動制限*2
<b>飲食店・伝統市場</b> *1 COVID-19 の予防と管理を徹底し、それに応じた対策を実施する責任があります。 *2 店内人数(売主・買主)を制限します。	活動*1	活動*1	活動*1	活動制限*2
<b>感染のリスクが高い業種:バー、カラオケ、マッサージ、ヘアカット、美容等</b> それぞれの地域で活動条件を制限。	活動/活動制限*	停止/活動制限*	停止/活動制限*	停止
<b>教育および訓練施設</b> *教育訓練省とCDCの指導で、COVID-19の予防と管理を確保する必要があります。 *2 教育訓練省の指導および地域の規制に従って、時間や生徒数など制限を行い、オンラインおよびテレビ教育と組み合わせる必要があります。	活動*	活動*/活動制限*2	活動制限*2	停止/活動制限*2

## 街中の状況

2022年の1月10日以降、ホーチミン市では、コロナの影響で発表した規制などがすべて解除され、市内の移動や活動の制限はなくなりました。ホーチミン市外からの移動や、ホーチミン市から他の市への移動には、PCR検査の陰性証明が必要な場合や7日間の隔離も必要となります。

2月1日からベトナムでは、テト(旧正月)となる為、通常であれば1月の中旬から多くの方が地方へと帰省を行います。規制により地方によっては、隔離期間があるため普段より早くに戻る方も多くなっています。また、地方出身者の中には、隔離期間などで働けなくなる時間も多くなるため、帰省せずにホーチミン市に残って仕事をする方も多くいます。

1月初旬からテトの準備などで、ホーチミンはにぎやかになってきています。ここまで、長期(5か月ぐらい)に渡り厳しい規制で外出ができなかった事もあって、コーヒーショップでゆっくりする方やレストランで食事するなど、通常の行動を求めており、連日街のコーヒーショップやレストランは満席となっています。



・テト前の街中



・市場

## 飲食店の状況

旧正月が近いということもあり、忘年会(1月後半)などをレストランで食事する方が増えており、会社以外の友人などが地方に帰省する前に集まって食事する習慣がある為、飲食店は賑わっています。利用制限については、スタッフと利用者共にあり、レストランスタッフは、2回のワクチン接種と接種証明書の保持、定期的な検査も必要で、利用者も2回のワクチン接種が必要です。



・賑わう飲食店

## 小売店の状況

小売店も飲食店同様にテトの影響で混雑しており、ショッピングモール前はコロナ前と同じ様な渋滞が起きています。また、ホーチミンに駐在の日本人も帰れない、帰らない方が多く、日本商品の販売店も混雑しています。



・混雑するショッピングモール前の道路



・テト向けに販売される日本産ギフト